
日常

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常

【コード】

N16090

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

朝起きて、仕事して、寝るまで。ありふれた日常。

（前書き）

みんな似たようなモノだと思う。学校へ行っていたり、仕事が忙しかったり、家事に追われていたり、習い事をしていたりと、少しずつは違って当たり前だけど、でも、本当に大切なモノは大して変わらないと思う。

朝アラームの音が鳴る。

何度鳴っても起きない僕を妻は起こしてくれる。

「おはよう。」と言つと「おはよう。」と、返してくれる。

台所に行つて朝食を食べる。

後片付けをした後、仕事に行く。

職場では、挨拶をして仕事を始める。

怒られる事もある。

注意を受ける事もある。

褒められる事もある。

しょうもない話をして、笑つたり、怒つたり、怒鳴つたり、泣いたり、落ち込んだり、喜んだり。

そして仕事が終わると家に帰る。

「ただいま」と言つと「おかえり」と家族が迎えてくれる。

家族と夕食を摂り、子供達と風呂に入る。

布団の上でゴロゴロしながら妻や子供達と遊んだり、話したり、

一人でゲームしたり、みんなでゲームしたり。

「おやすみ」と妻が子供達と僕に言つて眠りに入る。

遅くなつたら、妻と子供達は寝ている。

僕はゲームや携帯をやめ、電気を消して『おやすみ』と心の中で
呟いて眠りに入る。

そしてまた朝がくる。アラームが鳴っている。

そんなくだらない日常。

そんなくだらない日常。

でも、僕にとって大切な日常。

とても大切な日常。

かけがえのない日常。

それは誰にも言える事じゃないだろうか。

そう僕は思いたい。
そう僕は…思いたい。

(後書き)

そんな気持ちを心の宝物に生きて行けたらと思う。みんな、そうあってほしい。優しく、温かい、そんな大切な宝物であって欲しい。そう、強く思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1609o/>

日常

2010年10月14日13時05分発行